

第2期大田原市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画） 中間評価【概要版】

大田原市市民生活部国保年金課
令和3(2021)年 3月 発行

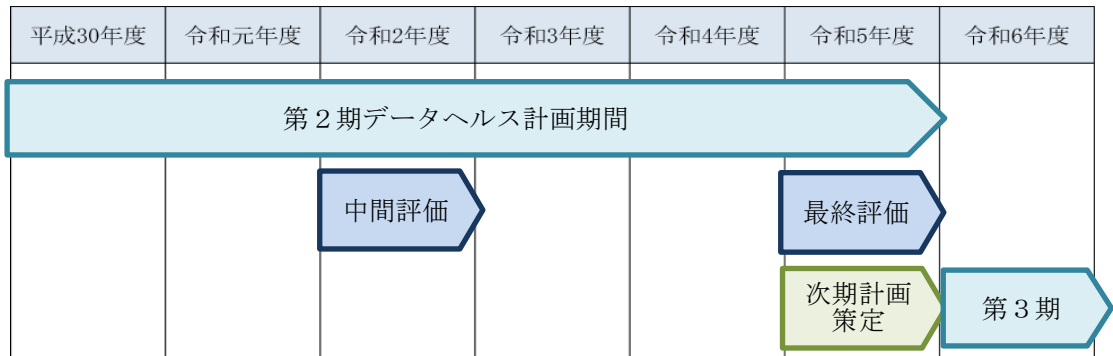
1. 基本的事項

➤ データヘルス計画について

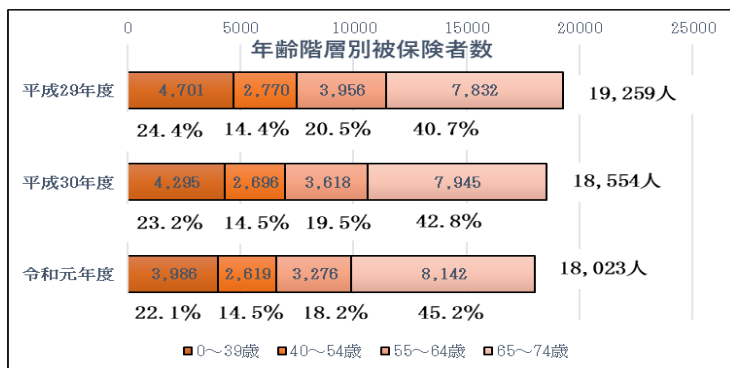
「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」により、保険者が加入者のレセプト等のデータ分析に基づき、PDCA サイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を推進するための事業計画のことである。

➤ 計画期間及び中間評価について

第2期データヘルス計画は、生活習慣病対策をはじめとする被保険者の健康増進により、医療費の適正化及び保険者の財政基盤強化が図られることを目的とし、平成30年度から令和5年度までの6年間の計画期間として平成30年3月に策定した。第2期データヘルス計画の中間年度である令和2年度に前期3年間（平成30年度～令和2年度）の事業評価を行い、令和3年度からの後期3年間の事業内容及び目標等の見直しを行った。

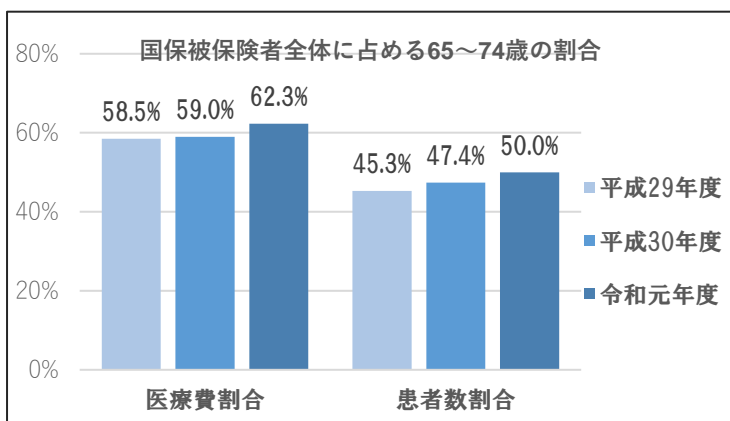


2. 被保険者数・医療費の状況



➤ 被保険者数

国保被保険者数は年々減少している。一方、年齢構成別では65～74歳の高齢者層の割合が増え続け、令和元年度には全体比45%に達している。（左上グラフ）



➤ 医療費

医療費は増加傾向にあり、被保険者一人当たりの医療費及びレセプト1件当たりの医療費も年々高額になっている。特に、65～74歳の被保険者数の増加に伴い、総医療費及び総患者数ともに65歳以上の割合が増加しており、令和元年度には総医療費の6割、総患者数の5割を占めている。（左下グラフ）

3. 保険者努力支援制度

国民健康保険では、保険者における予防・健康づくりや医療費適正化等の取組に対する支援である保険者努力支援制度が平成30年度から本格実施となった。がんを含む生活習慣病を中心とした疾病の予防、合併症予防を含む重症化予防、介護予防、後発医薬品の使用や適切な受療行動をとること等を目標に、健診等の受診率向上に取り組みつつ、個人の取組を促すインセンティブのある仕組みの構築が評価されている。今後の保険者努力支援制度の評価項目等の設定等について注視し、ライフステージに応じて関係課と連携を図り、市民との協働により引き続き対策を講じていく。

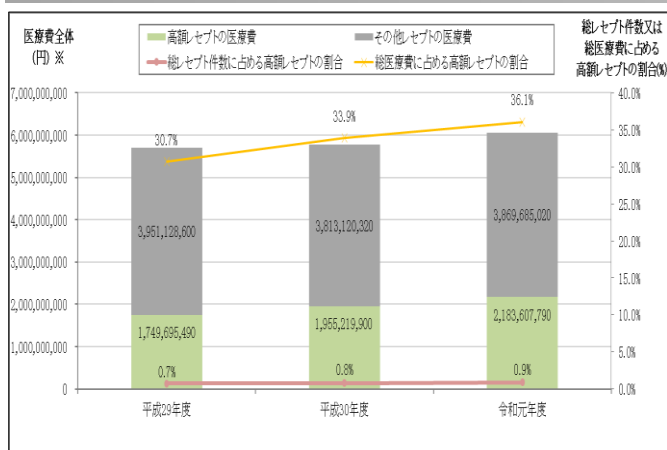
4. 特定健診受診率・特定保健指導実施率

	H29	H30	R1	R5目標値
特定健診受診率	54.3%	52.9%	51.0%	60.0%
保健指導実施率	39.3%	48.8%	37.3%	60.0%

特定健診受診率は県内上位を維持しているが、平成29年度54.3%をピークにわずかに低下している。特に、40～50歳代男性の受診率は33%前後と依然として低い状況である。

特定保健指導では、動機付け支援の対象者割合は8.5%前後と平成29年度から変化がない。一方、積極的支援の対象者割合は、平成29年度3.5%からわずかに減少を続けており、総じて特定保健指導対象者は、特定健診受診者全体の1割程度となっている。

5. 医療費情報の分析結果



➤ 高額レセプトに係る分析

診療点数5万点以上の高額レセプトにおいて、医療費及びレセプト件数は年々増加しており、令和元年度高額レセプト医療費は、平成29年度より4億円以上増加した。また、総レセプト件数の1%未満である高額レセプト分の医療費が、総医療費の36.1%を占めていた。(左グラフ)

高額レセプト発生患者の疾病傾向を見ると、患者一人当たりの医療費が高い「腎不全」は患者数

も多く課題の一つであった。患者数別では、「その他の悪性新生物(腫瘍)」「その他の心疾患」に加え「骨折」による高額レセプトの発生が目立った。さらに、年齢階層別に高額レセプトを見ると、医療費割合、患者数割合ともに65歳以上が全体の約65%を占めていた。

➤ 疾病別医療費分析

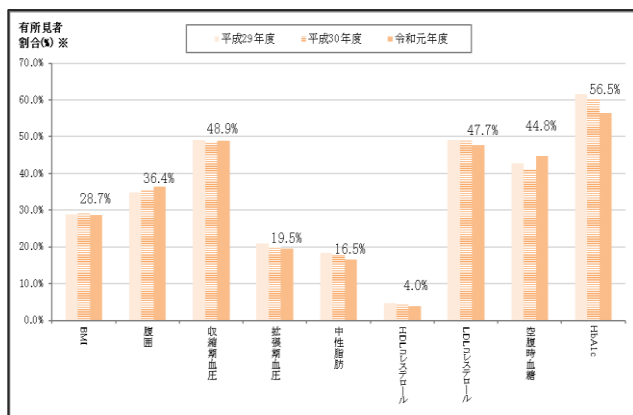
疾病項目別医療費割合は、「新生物(腫瘍)」「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」「神経系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が高い割合を占めていた。疾病中分類による医療費別順位は、生活習慣病である「高血圧性疾患」「糖尿病」が常に上位である。患者数別でも「高血圧性疾患」は常に1位であり年々割合も増加しており、患者数全体の約4割を占めていた。

➤ 生活習慣病に係る医療費分析

令和元年度生活習慣病医療費は、平成29年度より約4千万円減少し12億7,160万円であったが、「糖尿病」に係る医療費は平成29年度より1千万円以上増え2億7,789万円となった。

令和元年度の有病率をみると、「高血圧性疾患」「糖尿病」「脂質異常症」の順である。また、有病率7位の「腎不全」は、医療費が2億7,102万円(医療費構成順位3位/構成比21.3%)と高額で、患者一人当たりの医療費も最も高い疾病となっている。

6. 保健事業実施に係る分析



➤ 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

令和元年度のレセプトにおいて透析に当たる診療行為が行われている患者 67 人について分析した結果、起因が明らかになった患者 47 人のうち 61.2%にあたる 41 人が「糖尿病性腎症」であった。また新規透析導入患者 16 人のうち最多の 12 人（75%）が「糖尿病性腎症」であった。

➤ 特定健診受診者の有所見割合（左グラフ）

毎年度、収縮期血圧、LDL コレステロール、空腹時血糖及び HbA1c の有所見者割合が多い傾向にある。特に、HbA1c の有所見者割合が最も多く、受診者の半数以上が有所見であった。

➤ 特定保健指導に係る分析

令和元年度の健診受診者において、積極的支援では「血糖＋血圧」、動機付け支援では「血圧」又は「血糖＋血圧」のリスクを有し支援対象者となることが多かった。

7. 分析結果から見た課題と対策

第 2 期データヘルス計画における方向性として、糖尿病性腎症・虚血性心疾患・脳血管疾患における共通リスクを改善するため、重症化予防の取組とポピュレーションアプローチを組み合わせた事業を推進してきた。分析結果から把握された課題は以下のとおりであり、引き続き対策を講じていく。

重症化予防《糖尿病性腎症重症化予防》

- ・「糖尿病」は、医療費において常に上位にあり、患者数及び金額ベースでも増加の傾向にある。
- ・生活習慣病の中では「高血圧性疾患」を抜いて「糖尿病」の医療費がトップである。
- ・特定健診受診者の半数以上が HbA1c で有所見。
- ・特定保健指導の積極的支援では「血糖＋血圧」による対象者数が最多であり、指導による発症予防が重要である。
- ・患者一人当たりの医療費が最も高額な疾病は「腎不全」であり、人工透析患者の 61.2%は「糖尿病性腎症」に起因している。これらのことから、対策の強化が必要となっている。

重症化予防《虚血性心疾患重症化予防》

- ・対策の一環として取り組んできた「脂質異常症」に係る医療費は減少している。
- ・高額レセプト発生患者数において「虚血性心疾患」は上位であり、引き続きの対策が重要。
- ・特定健診受診者の約半数が LDL コレステロールで有所見。
- ・虚血性心疾患のリスク因子であるメタボリックシンドロームは、予備群を含め約 3 人に 1 人が該当。
- ・男性の腹囲有所見者割合は 50%を超えており、内臓脂肪及び脂質異常と虚血性心疾患についての課題について、対策が必要である。

重症化予防《脳血管疾患重症化予防》

- ・脳血管疾患の原因となる「高血圧性疾患」は、疾病別医療費における患者数が全体の約 4 割を占め常にトップである。患者数割合が増加傾向にある一方、費用額は減少している。
- ・保健指導対象者では、「血圧」と他項目とのリスクの重なりが目立つ。
- ・介護認定者の有病率として「高血圧症」は上位であり、引き続き取組が必要である。

ポピュレーションアプローチ

- ・がんの死因割合が年々増加し、有病率及び医療費も増加の状況にある。がん検診受診率は減少しており、受診率向上に向けた取組が喫緊の課題。
- ・生活習慣病の発症及び重症化予防に関連する喫煙対策及び歯科保健事業について、特定健診質問票の回答結果から、引き続き支援が必要である。
- ・後発医薬品使用促進の点では、普及率が増加し一定の効果が見られている。適切な受療行動と併せ継続して推進することが求められる。

8. 計画の目標及び評価・見直し

第2期データヘルス計画の目標管理（達成状況）は以下のとおりである。本評価を踏まえ、糖尿病性腎症・虚血性心疾患・脳血管疾患を減らし健康格差を縮小するため、目標の見直しを行った。

	課題を解決するための指標	ベース	現状	当初 目標値	評価	新規 目標値
		H28	R1	R5		R5
特定健診・特定保健指導	特定健診受診率	51.4%	51.0%	60%	B	60%
	40～50歳代男性の特定健診受診率	33.8%	32.5%	40%	B	40%
	特定保健指導実施率	36.3%	37.7%	60%	C	60%
	特定保健指導対象者の減少率（H20対比）	27.2%	29.7%	30.2%	A	
短期目標	メタボ該当・予備群の割合	31.0%	32.9%	28%	B	減少
	健診受診者の高血圧者の割合 （160/100以上）	4.9%	5.6%	4%	C	減少
	健診受診者の脂質異常者の割合 （男性LDL140以上）→（LDL140以上）	24.3%	19.8%	24%	A	減少
	健診受診者の糖尿病患者の割合 （HbA1c6.5%以上）	9.1%	10.2%	8.5%	B	減少
	糖尿病未治療者を治療に結び付ける割合 （HbA1c7%）	31%	38.6%	45%	B	増加
	糖尿病の保健指導を実施した割合	90%	91.8%	97%	A	97%
中長期目標	高額になる疾患（100万円以上レセプト）における 脳血管疾患の費用額割合	3.2%	4.3%	2.2%	D	減少
	高額になる疾患（200万円以上レセプト）における 虚血性心疾患の件数	11件	5件	8件	A	減少
	人工透析費用額における糖尿病性腎症割合の減少	43.9%	61.2%	39.9%	D	
	人工透析新規導入人数	9人	16人	8人	D	減少
保険者努力支援制度	市民健康診査の受診率	52.7%	49.8%	60%	B	
	がん検診受診率（肺がん検診）	49%	45.0%	53%	B	
	がん検診受診率（大腸がん検診）	48%	44.8%	52%	B	
	胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん の平均受診率【新設】	—	27.4%	—	—	増加
	歯科健診受診率【新設】	—	5.59%	—	—	増加
	後発医薬品の使用割合	68.0%	75.2%	80%	A	80%

※【新設】：見直しにより新たに設定した目標指標 / （ ）：見直しにより基準を変更した目標指標